

一般質問通告書

佐野市議会議長 様

受付	番号	11
	令和	3年 2月10日
	午前・午後	11時00分

議会名	令和 3 年 第 2 回 佐野市議会定例会		
発言者	議席番号	3 番	菅 原 達
答弁を求める者 (選択してください)	<input checked="" type="checkbox"/> 市長 ・ <input type="checkbox"/> 副市長 ・ <input type="checkbox"/> 教育長 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 担当部局長		
一般質問時に使用する資料の有無 (選択してください)	<input type="checkbox"/> あり (資料提示 ・ 資料配付 ・ モニター使用) <input checked="" type="checkbox"/> なし		
大項目 (質問項目) 中項目 (質問細目)	小項目 (具体的な質問内容)		
1. 子育て世代包括支援センターの充実について (1) 支援センターの現状と課題について (2) 「ネウボラ」から学ぶ支援センターの充実について	① <u>支援体制及び利用状況の現状と課題について</u> 担当保健師の配置、面接や相談の実施、家庭訪問の実施、利用者と家族を含めた状況の把握など、支援体制及び利用状況の現状と課題について伺いたい。 ① <u>育児パッケージの給付について</u> フィンランドにおいては、母親手当として、現金、もしくは新生児用の衣類やケア用品などが入った「育児パッケージ」を給付している。 本市においても「育児パッケージ」の給付により、支援センターの認知度及び利用率の向上に努めるべきと考えるがいかがか、伺いたい。 ② <u>担当保健師制度の導入について</u> フィンランドの保健師活動における「担当保健師制度」は、ネウボラにとって必須のシステムであり、担当医師と保健師が継続的に関わることで信頼関係を築いている。 本市においても「担当保健師制度」の導入により利用者や家族との信頼関係の構築に努め、		

2. 家庭保育について

(1) 家庭での保育を推奨する意義について

それにより利用者や家族が気軽に相談できる包括支援センターとしての機能の充実を図る必要があると考えるがいかがか、伺いたい。

① 保育需要の緩和について

幼児保育無償化に伴い、預かり保育を含めた保育需要の高まりによる保育士不足が懸念されている。

家庭での保育を推奨することで、高まる保育需要を緩和させ、保育の質の確保や、施設・人件費等の負担軽減に繋がるものとする考えがいかか、伺いたい。

② 経済的支援の平等性の確保について

幼児保育無償化により、保育園を利用する親に対する経済的支援の拡充が図られた一方、保育園を利用しない親に対する支援が乏しく、平等性に欠けるとの指摘がある。

家庭で保育を行う保護者に経済的支援を行うことで、平等性が確保されるものとする考えがいかか、伺いたい。

③ 保育における選択の自由について

家庭での保育を推奨する意義は、子どもが幼い時期には家の中で親とより多くの時間を費やすことが必要かつ重要であるとの考えによるものである。

そして、家庭での保育を推奨しつつ、保育園で保育するのか、家庭で保育するのか、選択の自由を拡げることにもあると言える。

保育における選択の自由の重要性についてどのように考えるのか、伺いたい。

④ 安心して産み育てられる環境の提供について

経済的な事情で働かなければならない家庭にとっては、幼児保育無償化により少子化対策に

(2) 家庭保育を行う家庭への支援について

一定の効果があるものの、希望する保育園が空いていなかったり、家庭での保育を望む家庭にとっては、仕事を優先して出産を諦めることもあり得るものと考える。

家庭での保育を支援することで、安心して子どもを産み育てられる環境を提供することができ、少子化対策、他市からの転入促進に繋がる重要な意義があるものと考えるがいかがか、伺いたい。

① (仮称) 家庭保育手当制度の導入について

保育需要の緩和、経済的支援の平等性の確保、保育における選択の自由、安心して産み育てられる環境の提供を踏まえ、(仮称) 家庭保育手当制度を導入すべきと考えるが、いかがか伺いたい。